

5がつの月けな森の子ども園だよ

<4.29.4.24>

新年度がスタートして、2名の新人さんを受け入れてから、3週間がすぎました。ひと月がたくとうしているところですが、私にとって、なかく感じる年度始めとなりました。

園児の人数は少ないのですが、年少3名の一人一人が在園の(みつきも)

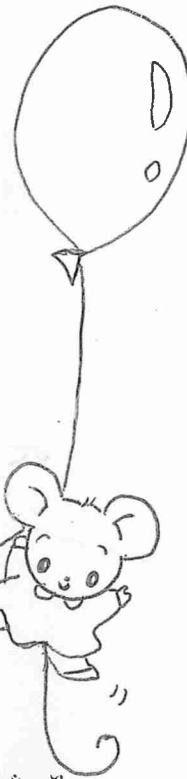
予想していたよりもはるかに個性を出し、一人一人全く違った強さをもっていて、バラバラな状況で、年長やまとは、その間をとりもとうと頑張ってくれてはいるものの、やまとはおまりの3人のオジサに、まいてしまうことも度々で、やまには気の毒なくらい、どんちゃん騒ぎの毎日となっています。うちは、たてわりの異年齢保育なのですが、年少、年長と保育年齢において、一番難しく重要な時期の子達が集まった今年度なので、3才児期の子どもと5才児期の子どもと、全く違うそれぞれの時期をとらえ、一緒に同じカリキュラム活動をやっていくことに加えてさらに、一人一人の個性が強いこと、それも対応しながら保育していかなくては、いつもにもまして、大変な4月でした。(深くもみひきすし)

うちの園は、今までやってきた中で、どの子ども早くにすーと、園生活になじんでいてくれますし、それがうちのうりでもあったのですが、

今年度は、**初**なくらい、まだ時間がかかっている子(あやみ)がいます。



在園の (みつきも)



何といっても、私に心を聞いてくれないけれど、まわりの友だちと共に一つの社会集団としてやっていくのは難しいと思えているのですが、オニーしずう、私にも心を聞いてくれてさうや、状況がみえてきたので、おすこ落ちて着いてくれると思います。

在園の子ども、新人さんには、別の気をつけて受け入れようとしてくれています。新人さんの状況によつて、かなり左右されます。心月は、みつきに、新人のあやみとゆいりに、まきまれ影響をもろに受けて、新入園児にもどしてほめてあげたい。時折、やはり2才児から来ている成長の違いを感じられる姿もみえてきています。

年長やまとは、女の子3人のと、くみあいのけんかの間にはいり、「ちよいちよいちよい... 待て... 今のは、OOちゃんがOOだからOOでしょ」と、けんかの仲裁にはいってくれることも多く、リーダーとして、とこもたくたくと頑張っています。女の子たちがそれでも言うことをきいてくれないで、泣いてしまうこともあり、精神面でもいっしょに働いてくれています。その分、私にスキンシップを求めてくることも多いので、十分に、応えてあげられるように、配慮(ていよ)しようです。

でもお互いの仲間意識は、日々の積み重ねで、

できています。その様子は、わらび狩りに行った時によくわかりました。

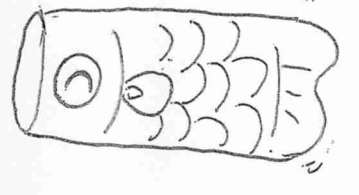
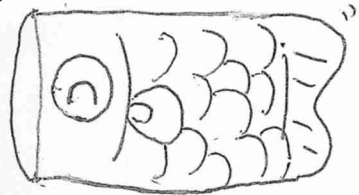
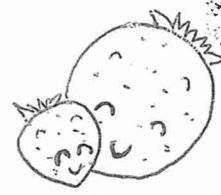
西原の萌の里、張山方面の急斜面でわらび狩りをしました。毎年行っているのですが、これは、野焼き後の茶ぶきの中、春の山菜わらびをみつけ、4又穫する楽しみと、それを味わうこと、山の道なき斜面を登り下りする事で、足腰を自然に鍛えられていくなどを主に目的として計画しています。

年長やまこには、より男らしく、たこましい根、三育をこ鬼、しているのび、バンバン行けることまでと、上の方へ登らせました。私が片手で何本もついでわらびをつんでは袋に入れておき、よくみて、やまともまわて、次々にうんでいました。

はじめは、急に斜面を登るので、呼吸や、足に負担がかかるので、3才児の初めての経験のゆいりとおやみにこ、では、特に大変だったと思います。私と先頭を行くやまこは、もどいて、ゆいりたちの背中をおしてくれたりしました。途中まで登ってわらびをとっている時、とうとう、ゆいりが、「つかれた」という言葉を吐いたので、「じゃ、そろそろ、3才児さんは、お休みか」といって、下り始めましたが、足端が悪く、慣れていないゆいりとおやみにこにも、みつきにこにも、下りはまたたいへんなので、立ったまま困った顔をしていました。

「大丈夫、ゆいりおいておいで、足をふみしめて、なにぞも挑戦だよ、おしりついてもいいけん〜」と、声かけをしていると、

「ゆいり、やれる、できるもん、がんばる！」と、自分に言いかけしているゆいりの姿がありました。と、こも一生懸命に言って、かわいかったんですよ。



そして、下りることができ、「ほら、できたよすごい！」と、声かけると、その後、ついで、上で、立ちすくんでいるあやみにこおいて、やまこ、ゆいり、みつきで、「がんばれんあやみちゃん！」と言いつつ、みんなであやみにこおりにこを見守っていたのです。(あやみにこのお母さん枝里さんも一緒に参加されていたのでその場にいらした)。そして、その後、おっかあ(布織)が待つ、下山したところの木のところで、下りていき、あとは、みつきとゆいり2人で下りして、その場で、見守り、やまこと私は、再び、もどいて、もっと高い所へ行こうと待っていたら、やまこが、自分からお母さん、「おれが、ゆいりとおみつきを、おっかあのところまでつれていってよか」と言いつつ、さっさと走り出し、バラバラにあちこちに下りていっているゆいりとおみつきに呼びかけながら、まるで牛飼いのように(笑)、誘導して連れて来たやまこでした。ほんとに、リーダーらしく、年長らしく、下の子たちの世話をし、気にかけて、動いて優しく対応してくれている姿は、たのしく、成長をとても感じた時間でした。そういうひとまを私は、日々、たこさん目のあたりにはしてみさせてもらい、感謝し、力をもらっています。いつも思うのですが、私一人でこの瞬間、このひとときを味わうことが多く、他の人にも共に共感してもらえたら、より一層嬉しいかな(なまこと鬼い、自分だけでは、その子に対して、もつたなく感じています)。

新入園児受け入れの4月の1日は、おっかあ(布織)と中1のりんこ、その友達のふうかちゃんか、手伝って、玄関に出て出迎えるから、4人体制でのうき育スタートでした。子ども達が帰ったあと、明日からサババババ「おっかあ」とふうかちゃんか感想でした。それくらいすごいかな。中学生の2人ももう感じてるくらいでした。次の日も

5がつの月けな森の二ども園だよ

<4.29.4.24>

新年度がスタートして、2名の新人さんを受け入れてから、3週間がすぎました。ひと月がたとうとしているところですが、私にとって、なにか感じる年度始めとなりました。

園児の人数は少ないのですが、年少3名の一人一人が在園の(みつきも)

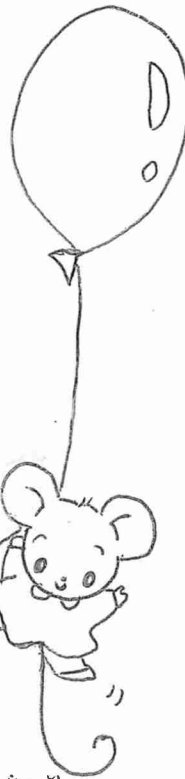
予想していたよりもはるかに個性を出し、一人一人全く違った強さをもっていて、バラバラな状況で、年長やまとは、その間をとりもとうと頑張ってくれてはいるものの、やまともあまりの3人のすごさに、まいてしまうことも度々で、やまとはには気の毒なくらい、どんちゃん騒ぎの毎日となっています。うちは、たてわりの異年齢保育なのですが、年少、年長と保育年齢において、一番難しく重要な時期の子達が集まった今年度なので、3才児期の子どもと5才児期の子どもと、全く違うそれぞれの時期をとらえ、一緒に同じカリキュラムの活動をやっていくことに加えてさらに、一人一人の個性が強いこと、それも対応しながら保育して、いますので、いつもにもまして、大変な4月でした。(深くもみていきます)

うちの園は、今までやってきた中で、どの子ども早くにすーと、園生活になじんできてくれますし、それがうちのうりでもあったのですが、

今年度は、**初**なくらい、まだ時間がかかっている子(あやみ)がいます。



在園の (みつきも)



何といっても、私に心を聞いてくれないけれど、まわりの友だちと共に一つの社会集団としてや、ていくことは難しいと思ってるのですが、すーしすう、私にも心を聞いてくれてさうや、状況がみえてきたので、おすこ落ちて着いてくれること思います。

在園の子ども、新人さんには、別の気をつけて受け入れようとしておいてあげよう。新人さんの状況によつて、かなり左右されます。心月は、みつきに、新人のあやみとゆいりに、まきまき影響をもろに受けて、新入園児にもおいてあげよう。時折、やはり2才児から来ている成長の違いを感じられる姿もみえてきています。

年長やまとは、女の子3人のと、(みあいのけんかの間にはいり、「ちよいちよいちよい...待て...今は、00ちゃんが00だから00だよ」と、けんかの仲裁にはいり、でくれることも多く、リーダーとして、とこもたのしく頑張っています。女の子たちがそれぞれ言うことをきいてくれないで、泣いてしまうこともあり、精神面でもいろいろ働いてくれています。その分、私にスキンシップを求めてくることも多いので、十分に、応えてあげられるように、配慮(ていよ)しようです。

でもお互いの仲間意識は、日々の積み重ねで、